

# 県平均の500円高 水準底上げ ▶ ブランド化着々

長野県のJA須高りんご部会高山支部と同JA高山共選所は、ブランド化作戦に取り組み、成果を挙げている。厳しい選果基準に応える農家の努力と、4色カラー箱などのイメージ戦略で、高級品を含むりんご全体の販売価格を押し上げている。

## 長野・JA須高りんご部会高山支部と共選所

同部会と共選所は「信州高山さわやかりんご」の名で、2004年度からブランド化に取り組んでいる。同共選所の小林和弘係長は「まず選果基準を3等級から4等級に分けた。箱も茶色から白の段ボールに変えた。平均単価はこの04年度から上がり始めた」という。

サンふじを例に取ると、従来は県平均価格と変わらなかった同共選所の市場価格は、05年度は県平均が10キロ2268円に対し、2827円。高級品用に4色カラー箱を取り入れた07年度は、県平均2480円に対し3236円と上昇した。価格が高い贈答用主体

### 選果基準 細かく

昇について小林係長は「箱でイメージアップを

### 段ボール 色付き

以前は3、4割あった

ル秀(秀の下)規格の市場価格が大幅に上がり、



贈答用りんごの箱詰め作業(長野県JA須高高山共選所で)

平均単価を押し上げた」と説明する。JAりんご部会高山支部長の内山信行さん(64)は「当初は選果基準が厳しいという声もあったが、ブランドとは何かを徹底して話し合い、品質向上に努めた。その結果、高級品を含めた全体の底上げを図ることができ、市場や消費者の信頼も向上した」と部会の取り組みを評価する。同共選所は今年も贈答用の直売に、10キロカラー箱入り最高級の「ふじ」プレミアムゴールドを1万3000円(送料込み)で発売し、売れ行き好調だ。イメージと努力両面からのブランド化作戦は、着々と進む。